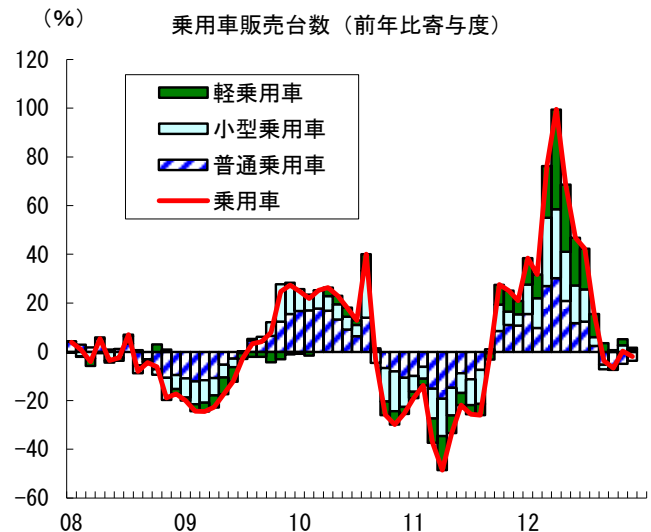
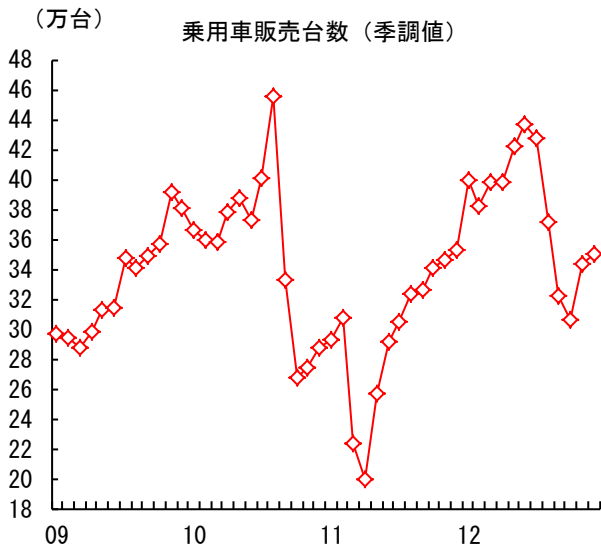


テーマ：新車販売台数（2012年12月）

発表日：2013年1月7日（月）

～乗用車販売は底打ち。景気は12年11月を底に回復局面入りか～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

（注）季節調整は第一生命経済研究所

○ 季節調整値では2ヶ月連続の増加

日本自動車販売協会連合会が発表した12年12月の新車販売台数（軽自動車を除く登録車）は前年比▲3.4%（11月：同▲3.3%）、全国軽自動車協会連合会が発表した軽自動車販売台数は同▲2.5%（11月：同+4.6%）、登録車と軽自動車を合わせた販売台数では前年比▲3.1%（11月：同▲0.4%）となった。このうち、乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比▲2.0%（11月：同+0.2%）だった。いずれも前月から悪化している。

もっとも、季節調整値（季節調整は第一生命経済研究所）で見ると、12月の乗用車販売台数は前月比+1.9%（11月：+12.2%）と、小幅ながら2ヶ月連続の増加となっている。10月までの落ち込みが大きいため、10-12月期という四半期で見れば前期比▲10.8%と、7-9月期（同▲10.8%）に続いて大幅減だが、月次で見ると乗用車販売は10月が底になる可能性が高まった。鉱工業生産指数でも、輸送機械の生産が10～11月で概ね横ばい、12月、1月の生産計画が大幅増加と、今後の自動車生産持ち直しを感じさせる結果になっているが、販売サイドからもこうした動きが裏付けられている。

これまでの需要先食いの規模が大きいため、この先販売が順調に回復していくかどうかについては慎重に見る必要があるが、とりあえず底をつけたことの意義は大きい。これまで自動車販売・生産の大幅な減少が景気の足を引っ張ってきただけに、景気の先行きを占う上でも好材料だ。今後の輸出次第の面はあるが、先日の鉱工業生産の結果と併せて考えれば、12年11月を底として景気は既に回復局面に転じている可能性が高くなってきた。